

栃の木からの手紙

2025年 皐月 5月号



- 5日： 立夏
- 13日： 満月 旧 4月 16日
- 21日： 小満
- 27日： 新月 旧 5月 1日

昨年は4月13日に播種をして予定より1週間遅れて移植を行い、秋の収穫時期になっても大きなものは数える程しか無く、生ビーツのネット販売は出来ない状態でした。そこで今年は昨年より1週間早く、4月7日に赤ビーツの播種を行いました。セルトレー70枚分。

播種したセルトレーは水をたっぷり掛けてミニコンの上に重ねて置いて保温の為にビニールで囲って発芽を待ちます。6日程の4月13日に発芽が始まり、直ぐにミニコンの上に並べて温室管理を始めます。トレーを重ねている為、発芽を確認したら直ぐに拵げないと芽が傷んでしまいます。

拵げたトレーを囲う様にビニールを設置して、ハウスの中に簡易ビニールハウスを作ります。

これで、赤ビーツの育苗準備が完了。表面の乾き具合や温度に注意しながら苗の生育を待ちます。



途中で間引き作業をして「まだ小さいな」と思っていたが何か変？ どうもネズミらしい。粘着性のネズミ捕りと機械式のネズミ捕りを設置して待つ事

数日。餌を新しいものに交換して積雪10cmを迎えた4月末日朝。10cm超えの大きなネズミが機械式の檻に入っていました。ネズミ捕りも、粘着式は、獲物の大きさによっては貼り付いても齧ってちぎってしまう場合がある。また、薬剤の付いた毒餌を置いておくと死ぬまでの間に薬剤の付いた体であちこち移動して有機栽培の苗や作物を薬剤で汚染させる可能性がある為、そういった薬剤の使用は出来ない。結局、従来の機械式ネズミ捕りは価値がありますね。





古くからの物や、方式、考え方が現在に続いている、受け継がれているという事の中に大切な事がある。

ネズミによる赤ビーツ苗の食害が1割程あるので、一日中雨振りの4月29日にセルトレーを10枚追加で赤ビーツの播種作業を行ないました。

これから一週間程で発芽する予定。

これが発芽したらビニールハウスに広げるので、ハウスの大きさを調節して広げなくてはならない。ネズミのお蔭で余計な作業が増えました。

そう言う私も、ネズミですが…。

慣行圃場(2615畑)の土壌分析値の一部

	pH	CEC	磷酸吸収係数
基準値	5.8~6.2	15~20	700~1500
2024年	5.48	19.2	984
2023年	5.76	17.3	1140
2022年	5.41	18	1340
2021年	5.58	19.6	1271
2020年	5.41	18.5	1407
2019年	4.87	18.3	964
2018年	4.89	18.3	1182
	土壌の酸性・アルカリ性を見る	土壌が肥料分を蓄えられる大きさ	作物のリン酸の利用し易さ



永年、JAや業者を利用して各畑の土壌分析を行っています。分析していただいた数値を上手く栽培に利用できているかというところと全くできていない状況です。

それでも毎年、作物収穫後の秋には各畑の土壌サンプルを採取して分析に出しています。

☆ 土壌分析結果

有機JAS畑 作付土壌分析記録

☆ 作付記録		☆ 土壌分析結果																			
年	区画	作物	pH	EC	培養窒素	熱水窒素	NO3-N	NH4-N	リン酸	カリ	苦土	石灰	ケイ酸	腐食	リン酸吸収係数	苦土・カリ比	石灰・苦土比	リン酸・苦土比	CEC	塩基飽和度	
基準値			5.5-6.5						10.0-30.0	15.0-30.0	25-45	200-300			10.0-20	700-1500	2.0-7.0	3.0-7.0		15-20	60-80
2025年	R7	食用ビーツ	デントコーン																		
2024年	R6	食用ビーツ	デントコーン																		
2023年	R5	とうや	きたあかり	食用ビーツ	さやあかね																
2022年	R4	とうや	きたあかり	食用ビーツ	さやあかね																
2021年	R3	きたあかり	とうや	さやあかね	食用ビーツ	休閑録肥															
2020年	R2	とうや	きたあかり	さやあかね	黒大豆	食用ビーツ															
2019年	H31R1	ノーサン・ルビー	きたあかり	とうや	さやあかね	黒大豆															
2018年	H30	とうや	ノーサン・ルビー	さやあかね	きたあかり	黒大豆															
2017年	H29	きたあかり	とうや	黒大豆	さやあかね	とうや															
2016年	H28	メーキン	きたあかり	とうや	きたあかり	さやあかね	小麦	黒大豆													
2015年	H27	さやあかね	きたあかり	とうや	きたあかり	さやあかね	小麦	大豆	かぼちゃ												
2014年	H26	大豆	きたあかり	とうや	きたあかり	かぼちゃ															

土壌分析値を見ていて有機JAS畑と慣行畑との違いで気付いた事は、有機畑はpHが慣行畑よりも高いという事。慣行畑は、アルカリ質の石灰資材を大量に畑に施用しているのにpHが低い。有機畑は、アルカリ質の資材を入れなくてもそこそこのpHになっている。要は、化学肥料による悪戯なんです、化学肥料を使う程に石灰資材も施用しなくてはなりませんよという事。

何処に経費を掛けて、何処に向かって行くのが良いのか？ 持続できる方向へ…。